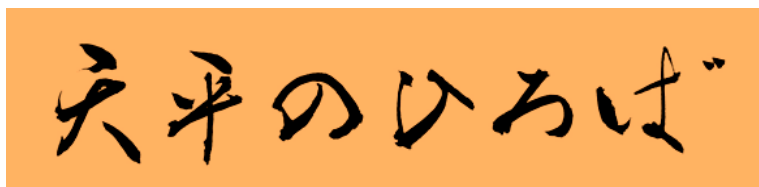




平城宮跡でボランティア活動をしている私たちの会報紙です



2023 年 10 月発行

88 号

☎/Fax 0742-34-7713

e-mail : npoheijyou@yahoo.co.jp

http://www.heijyonet.nara.jp

NPO法人平城宮跡サポートネットワーク（NPO平城宮跡）

〒630-8577 奈良市二条町 2-9-1 奈良文化財研究所内

第一次大極殿院・東楼の 復原整備を進めています

国土交通省では、令和 4 年 3 月大極門完成（開門）に続き、同年 4 月より、東楼の復原整備（施工者：（株）竹中工務店大阪本店）に着手しました。

令和 5 年 9 月現在の進捗について、簡単ですが、ご報告させていただきます。

昨年度より進めておりました基礎工事、礎石や足場設置が終わり、本年 6 月頃より、東楼の屋根を支える外周の柱（側柱：がわばしら）の建て込みに入りました。側柱は 12m の通柱であり、復原構造物では最大級の長さとなっています。材料となるヒノキは、推定樹齢 200～300 年の奈良、和歌山、三重、愛知、岐阜産を用いています。



写真1:側柱の建て込み状況



写真2:16本の側柱の建て込みが完了

側柱の建て込みに続き、側柱の内側に足場を設置、東楼 2 階の床を支える内部の柱（束柱：つかばしら）の建て込みを行いました。

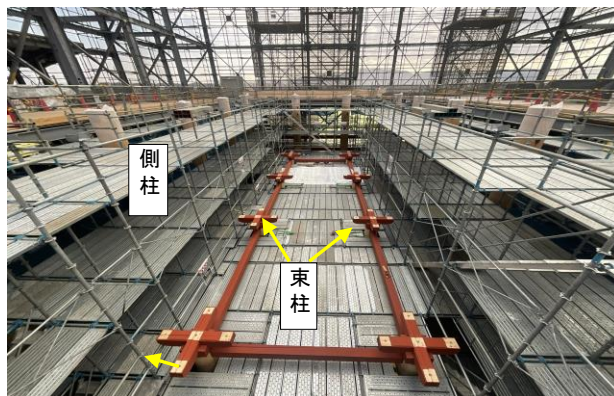


写真3:2階の床を支える8本の束柱の建て込みが完了(9月27日現在)

また、現地作業のほか、瓦や飾り金具の製作も近隣の工房で並行して行っています。



軒丸瓦の製作状況



地垂木口金具鑄型(主型)

裏型と合わせた後、銅を流し込みます

復原にあたっては、奈良文化財研究所のこれまでの研究成果を踏まえた学術的な助言等を頂きながら、瓦の文様や飾り金具の製作技法なども具に復原、令和 7 年度の完成を目指し、整備を進めています。

復原整備中は、工事関係者等の出入りや規制等により、ご不便をおかけすることとなりますが、引き続き、皆さまのご理解ご支援を頂きますよう宜しくお願いいたします。（※写真1～3：（株）竹中工務店 提供）

（飛鳥歴史公園事務所平城分室 田中元洋）

平城宮跡安全・安心パトロールが総点検

7 月 20 日「安全・安心連絡協議会（13 団体）」の開催前に、奈良県文化財保存課はじめ、平城宮跡管理センター、同保存協力会など 14 名は、2 班に分かれて、朱雀門周辺の安全安心パトロール（環境保全総点検）を 20 分間実施しました。（環境保全部会）



第48回平城宮跡歴史文化講座は10月7日平城宮跡資料館講堂で「聖武天皇の生涯～相次ぐ遷都～」と題し210名の参加で講演。

聖武天皇は、曾祖父が天武、父が文武、天皇家の嫡流であり、同時に母も妻も藤原不比等の娘で、藤原氏との関係が深く、平城京は「聖武のために造られた都」といえた。聖武天皇、妻の光明子とも701年生まれ、716年に結婚、718年に女子が生まれる。724年に聖武即位、727年に男子が誕生、生まれて2か月で皇太子に立てるといふ、異例の措置が行われたが、翌年9月に死亡する。聖武夫妻の悲しみは非常に深かった。

聖武天皇即位から「長屋王の変(729年)」までは、皇子の死はあったものの、まず平穩に推移したが、聖武、藤原氏側としては、身内の次期天皇候補を失うという立場の変化が生じた。そのため聖武天皇は、天皇即位もありうる「皇后」に、皇族でない光明子を立てようという無理筋の実現を図る。

当時の政権首班であった長屋王は、祖父が天武、妻の吉備内親王は元明の子で、夫妻の男子三人は、血筋の面では有力な次期天皇候補であった。長屋王の変は、藤原氏が長屋王を除こうとした事件ではあるが、真の狙いは長屋王の王子の排除だったのではない。聖武天皇は藤原氏が同じ皇族の長屋王一族を滅ぼすのを、結局は黙認してしまう。

しかし、これは大きな心の重石となった。変の後も736年の天然痘大流行までは平穩に過ぎていくが、聖武夫妻は仏教への沈潜を深めていき、一切経の写経事業などに傾倒していく。

天然痘流行、藤原四兄弟の死去など、政局の変転を経て、740年には九州で藤原広嗣の反乱が起こる。そして、その年の暮れに突如「恭仁京」へ遷都してしまう。遷都の理由はこの反乱から逃れるためだけではないと考えられる。平城京を出て恭仁京に至る

行程は、壬申の乱で天武が勝利し凱旋した行程をなぞっている。また恭仁京に含まれる「甕原(みかはら)」はもともと離宮があり、元明天皇、聖武天皇も何度も訪れている。勝利のルートを通して、なじみの地へ遷都するという意味も感じられる。

聖武天皇は、平城京が「自分のために造られた都」という事への負い目、皇子の死、皇族間の争い、もあってか、余程平城京には戻りたくなかったものと思われる。3年後には、天武が運営した副都であった「難波宮」に遷都、さら740年には、やはり離宮のあった「紫香楽宮」へ移り、大仏建立を始める。745年になり、奈良で大仏を造ればよいという貴族たちの懇願もあり、平城京へ還都した。(編集部)

平城宮跡歴史文化講座(次回)

1月27日:市 大樹(大阪大学大学院人文学研究科教授) 「聖武天皇の生涯—後継者問題—」

緑の保全部会が草刈り除草作業

9月12日猛暑の中、熱中症に注意しながら平城宮跡資料館玄関周りの草刈り除草作業を8名で行いました。緑の保全部会は(松愛会奈良東支部)を中心に活動、玄人はだしの作業ぶりに来館者から、驚きの声とともに感謝のお言葉をいただきました。

松愛会は、9月3日「第21回平城宮跡クリーン大会・2023 クリーンアップなら」の清掃活動にも団体として参加しています。(緑の保全部会)



平城宮跡資料館玄関周りの草刈り 除草作業↑(1) ↓(2)



好評 平城京 歴史講座

菊井佳弥さん（奈良市埋蔵文化財調査センター調査員）が、7月8日93名に「**高級貴族の邸宅の調査—平城京左京三条三坊四坪の調査成果から—**」と題し講演。



平城京左京三条三坊の三・四・五・六坪は（776次、本年1～5月）調査に先立ち、三坪と六坪は境界を挟んで、一体利用が判明していた。

奈良時代前半瀬後谷（木津川市）の住宅用瓦が大量に出土、瓦葺建物の存在が推定されていた。また寺院や官衙でなく、住宅の建物を瓦葺にすることが認められた724年当時存命で三位以上かつ居住地が不明な人は、日本書紀を編纂した「舎人親王」のみであることから、近江俊秀文化庁調査官が邸宅跡と説く地である。

三坪 三条条間南小路	六坪
四坪	五坪

（中心部が今回検出建物）

今回は、東三条坊間西小路を跨いだ建物5棟を発掘。また北端の建物はその規模から、敷地の中心的建物とみられ、三条条間南小路（三坪六坪と四坪五坪の境界）上にかかることから、三・四・五・六坪は四町分を一体利用した、高級貴族の大規模宅地であることが証明され、四町（約250m四方）規模の長屋王邸跡と比較できる資料を得ることができた。

（編集部）

服部光真さん（元興寺文化財研究所主任研究員）が8月19日89名に「**元興寺の創建—日本仏教はじまりの寺—**」と題し講演。



596年、蘇我馬子発願「仏法元興」の本格的寺院は718年元興寺として創建。

渡来僧、留学僧も多く集まる仏教、学問の中心で高句麗僧慧慈、百濟僧観勒、

高句麗僧慧灌、義淵、道昭、行基など、仏教学問のみならず建築、土木技術、医療、暦まで大陸文化・技術の窓口ともいえる。遺構・遺物では中新屋町で講堂、鐘楼礎石を出土、ならまちセンターあたりから元興寺の創建瓦が大量に出土している。

飛鳥時代の4大寺院は、大官大寺、川原寺、飛鳥寺、薬師寺。平城京及びその周辺の朝廷の保護を受けた南都七大寺は、興福寺、東大寺、西大寺、薬師寺、元興寺、大安寺、法隆寺と言われており、元興寺は平城京の条坊を基本とし、辻子と突抜けに古代元興寺僧房がある。

僧房で法相宗の僧“護命”が読経を唱えると邪魔する蛙も、鳴きやみ誤って鳴川となった。庚申信仰の始祖。元興寺は智光曼荼羅が信仰を集め、極楽坊に発展し、国家の寺院から「ならまち」に根付いた都市の浄土霊場として極楽往生を願うほか、太子信仰など様々な信仰が展開され、庶民に最も身近な仏教文化の信仰寺院となっている。（編集部）

島田宗人さん（NPO 平城宮跡会員）が9月9日97名に「**縣犬養橘三千代—光明皇后と橘諸兄の母—信仰の篤い宮人—**」と題し講演。



665年河内国古市郡生まれで、天武-持統-文武-元明-元正-聖武と王家6代に仕え15歳で美努王と結婚、696年（32歳）で藤原不比等（38歳）と再婚。

元明天皇、不比等から慕われた理由には、「場を明るくし人々を元気付けるパワフルな女性であった」と考える。

また、仏教信仰に篤く法隆寺の太子信仰はじめ、西円堂や東院伽藍夢殿など、三千代を継ぐ光明皇后・牟漏女王・孝謙天皇・橘古那可智の女性たちが、多く寄進し今でも太子信仰の聖地となっている。

女官のトップとして、733年69歳まで宮廷に大きな影響力をもった古代のキャリアウーマン。王家の乳母で女帝の補佐役を果たしながら、後宮で「隠然たる勢力を振るった」とも言われている。

さらに作家の杉本苑子氏は、三千代は橘氏の姓を賜り、王家に藤原氏の娘を入れる。縣犬養氏の族長（氏の上）として、『宮廷で政治を動かし家を繁栄させた女官』と筋金入りの“したたか者”と評している。（編集部）

次回の平城京 歴史講座（いざない館）

10月14日：吉田卓爾（正倉院事務所保存課）

「奈良時代の絵画作例と正倉院宝物」



1988 年千葉県千葉市生まれ。
2011 年早稲田大学文学部卒業、
2013 年同大学院修士修了後、
同年から、群馬県文化財行政
担当（2022 年まで）として勤
務、ハッ場ダムの発掘調査な
どに従事。その間、2016 年東

京大学大学院に入学、2020 年博士（文学）を取得、
2023 年 4 月奈文研に入所、現在に至っています。

小原さんは、旧石器時代の考古学の研究に関心があります。展示企画室は、研究所の研究成果の情報発信などの推進を担当する部門です。さらに平城宮跡資料館、平城宮いざない館などで学芸員に相当する業務を担当、かつボランティアガイドなどの質問対応をしています。つまり、新たな展示手法の模索などに取り組み、展示・教育普及という形で、研究所の成果を発信し、文化財の大切さを一般の人に分かり易く伝えることが、主な任務です。

地下に眠る埋蔵文化財は、発掘調査→整理→保存→研究→公開・活用という流れに沿って現代社会に活かされることとなりますが、その流れの行きつくところ活用の段階が活躍の場と言えます。平城宮跡資料館での新たな展示手法の模索などに、アンテナを張りめぐらしながら、平城京・宮に関する研究成果の情報発信及び企画展立案、並行して、チラシ・ポスターの製作も行います。

夏の特別企画“イカロスの翼”をフォロー、地下の正倉院展に代わる秋の特別企画展（10 月 28 日から）“女帝の祈り一発掘された西大寺と西隆寺一”の企画、平城京・宮の情報発信にトライし、子どもたちに分かり易く展示公開するよう取り組んでいます。

学生時代は映画館に入りびたり、自ら何ができるかと、九十九里までとか、北海道までの自転車旅行も敢行しています。奈文研では、やりたいことのひとつ、展示企画にこれまでの経験を活かして、チャレンジすることを忘れないと、明るく話す好青年でした。（編集部）

平城宮跡を“楽しむ”人たち

第 21 回平城宮跡クリーン大会を

2023 クリーンアップならと共同開催

NP0 平城宮跡は、9 月 3 日早朝、朱雀門ひろばで奈文研、管理センター、県指定管理者と共催、「きれいに暮らす奈良」と共同開催。奈文研本中眞所長、南都銀行曾根宏和西大寺支店長挨拶の後、熱中症を警戒しながら四コースに分かれて遺構展示館まで、約 300 名が元気に汗を流しました。

きれいになった平城宮跡に全国からお客さまが来て欲しいと話していました。（環境保全事業）



奈文研本中眞所長の挨拶



収集したゴミの前で集合写真

新規会員の紹介/募集

＊ ＊新規会員の紹介＊ ＊（10 月 1 日現在）。

河野良子さんが入会しました。

＊ ＊新規会員の募集＊ ＊

＜活動の支援/入会のお申し込み＞

❖ 個人が支援/活動 年会費 3000 円

❖ 法人が支援/活動 年会費 10000 円

◆ お申込みなど ☎/Fax : 0742-34-7713

編集後記

私も“後期”高齢者の仲間入りとなりました。重症化し易いと云われる熱中症に注意しながら、これを“好機”と読み替えることにしています。

（萱鼠）